



山口情報芸術センター プレスリリース

YCAMオリジナル市民参加ダンス公演＋アフタートーク 「ら抜き」

日程:3月20日(土) 2:00p.m. アフタートーク付き

会場:山口情報芸術センター スタジオA

料金:全自由席 一般1,000円 any会員800円

各1ドリンク付き

チケット予約:

YCAMチケット予約専用電話 TEL:083-920-6111

(10:00~19:00 休館日を除く)

※ チケットは税込価格。

※ 未就学児童のご入場をお断りさせていただきます。

主催:文化芸術による創造のまち山口実行委員会

企画制作:山口情報芸術センター

構成・演出・振付:井手茂太

出演:榎本恭子、大谷美由紀、桑野由起子、佐藤恭子、平山真紀子

中島由美子、新田祐子、脇本雄樹

中村達哉(友情出演/イデピアン・クルー)

振付助手:菅尾なぎさ

照明デザイン:齋藤茂男

照明:高円厚美

音響:島猛、大久保友紀

舞台監督:大川裕

山口情報芸術センターでは、開館前のプレイベント時よりダンスグループイデピアン・クルーを主宰する若手振付家井手茂太さんによるダンスワークショップ重ねてきました。その総決算として、来る3月に市民参加による一日限りのダンス公演を開催いたします。

1月31日に実施したオーディションでは、市内外より15名の参加者が集まり、厳しい?選考により20代から40代まで、8名の方が選ばれました。中には全くのダンス未経験者もいらっしゃいます。

2月から始まり、現在も連日YCAMで行われている長期稽古の中、彼ら自身の動きをみて、それをもとに井手さんが振りと演出、構成を考えた新作であり、今回以外では生まれることのない作品です。

一般の市民の方が、どんな『出演者』に変身するのか?

それを見たらきっと、自分も踊ってみたい、と思う人が現れるに違いありません。是非ご覧下さい。

飛べる? 回れる? 踊られる?

見れる? 来れる?

そして、感じられる?

見れるとか、来れるとか、

すでに定着して使われている「ら抜き」言葉。

この言葉、実は最近の若者が使いだしたわけではなく、

大正時代の末あたりからあって、

昭和初期、戦後に特によく使われるようになったらしいのです。

焦燥や喧騒の中から生まれた、『ら』を抜いた表現。

見えてくるのは、『ら』を抜いた、素直な脱力感のようなもの。

この作品は、「ら抜き」言葉をダンスという表現に置き換えた作品です。

約3週間という準備期間の短さを考えて、

「手抜き」ではなく、『ら』を抜いて、創作に取り組みました。

つまり、ダンステクニックはまず脇へ置き、

ふだんの生活の出来事の中から、ダンスの動きを発見する。

あるいは、単純な体の動きを、ダンスとして発展させる。

創作の素は、ステージに立つ人と客席との距離感や、人と空間との関係。

だから、芝居や古典バレエ作品のように、ストーリーみたいなものはありません。

意味を読み取ろうなどと考えずに、肩の力を抜いて、

舞台の上の人の動きを、眺めてみてください。

あなたは、このダンス、感じられる?

手は抜かず、力を抜いて、空間と人との感覚、そして、人と人との関係性を。

井手茂太